



月刊 千葉動力労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

93.10.5No. 3869

規程無視の運転取扱いはやめろ

9/30 申如号交渉

九月三〇日、規定や運転保安を無視した運転・勤務の取り扱いが行われていることに、団体交渉が行われた。しかし回答は、「異常時には規定など関係ない」言わんばかりの不誠実なものであった。

● 1-(1)(2)(3)項について

組 回答は「必要なことは通告している」と言っただけで片づけているが、質問していることは

規定上、列車種別の変更や時刻変更等、必要な通告が行われていないということだ。回答になっていない。
当 「臨時客扱い」という位置づけなので列車種別としては特急のままである。
組 異常時は何をやってもいいと言ったか。臨時客扱いならば、時刻表も交付しなくていいと言うならば、乗務員は何を基準として運転すればいい

のか、という問題が出てくる。このようなことをやるということは「止める勇氣を持って」などと言っていることが全てウソだということになる。例えば、閉そくの中継駅など止まるのか止まらないのか、という問題も出てくる。
当 組合の言っていることもわかるが、異常時に何をすべきか考えると、第一にお客様の救済であり、第二にダイヤの正常化であり、運転時分を盛るということにはならない

組 各駅に停車する、ということとは、当然運転時分が変わってくる。運転時分の変更は、通告券によらなければならぬ、というのが「運心」の定めではないか。
当 止まるんだからその分遅れでもかまわない。しかし臨時客扱いの場合は、特急の時刻表を準用してもらう。
組 そのような言い方、「運心」等に定められていることを無視するに等しいものだ。例えば閉そくの中継駅など

1 この間、次のような、規程に抵触した運転取り扱いが行われているが、考え方を明らかにすること。
(1) 特急列車を、指令からの指示だけで各駅停車列車として運転させているが、この場合、列車種別、時刻表等を変更した通告券が必要であると考え、見解を明らかにされたい。

異常時におけるお客さまに対する緊急措置として、特急列車を臨時に各駅に停車させ客扱いを行う場合は、指令から乗務員に対し、駅長を介しての運転通告券または列車無線による運転通告受領券が必要な事項を通告することとしている。

(2) 側線(黒砂信号場)に停車する列車に対し、指令から、本線通過とだけ指示が行われているが、この場合、着線・時刻変更の通告券が必要であると考え、見解を明らかにされたい。
(3) また逆に、本線通過列車を側線(根古屋信号場)に停車させる指示が同様にされているが、この場合も、着線・時刻変更の通告券が必要であると考え、見解を明らかにされたい。

列車遅延等により、臨時に着発線の変更が生じる場合は、指令から乗務員に対して、駅長を介しての運転通告券または列車無線による運転通告受領券が必要な事項を通告している。

2 9月3日、内房線竹岡駅-浜金谷駅間において、落石防止停止警報装置が作動しているにもかかわらず、そのまま運転させたことは、運転取り扱い上及び安全を無視した取り扱いであると考え、見解を明らかにされたい。

落石警報装置が動作した場合は、両端の駅に列車を抑止することになるが、既に駅間に列車が進入した場合については、運転士は前途に支障がないことを確かめた後、輸送指令員にその状況を報告し、輸送指令員から進行してもよい旨の指示を受けてから運転を開始することとしている。

3 この間、指令員の取り扱いミスによる異線現示が多発していると考え、見解及び対策を明らかにされたい。
指令において、毎月計画的に実施している訓練により、規程類、異常時等の取扱い及び指示伝達の研鑽に努める等、指令員のレベルアップを図っているところである。

4 異常時に通勤最寄り駅から乗務に就かせる取り扱いが行われているが、このような取扱いは、規程等に抵触し、かつ運転保安上重大な問題があると考え、見解を明らかにされたい。
異常時における列車運行については、会社としていち早く正常運行に復する努力が必要である。このような場合には、社員は管理者から必要な指示命令を受け就労することになる。
なお、今回の場合も必要な指示をしており、特に安全上問題ないと考えている。

5 成田駅での分割作業(千葉運転区B179)において、現在、後方で移動合図が行われているが、安全上から、前方での合図を行うよう、改善すること。
業務実態をみれば、現行の分割作業体制で特に問題ないと考えている。

6 総武快速線において、走行中の異常振動が発生しているが、原因、見解及び対策を明らかにされたい。
定期的な調査からは、そのような実態はない。今後についても、引き続き実態を調査し、より快適な線路づくりに努めていく。